

3. 令和2年度 困難事例結果

身寄りがない人の入院及び医療に係る対応の中で特に課題が残されたと思われる事例について具体的に教えて下さい

医療機関からの事例を類似性に基づいて集約した

✓ n=671 事例

✓ 性別

男性	473 事例	女性	149 事例
----	--------	----	--------

✓ 年齢

20 歳代	3 事例
30 歳代	—
40 歳代	10 事例
50 歳代	35 事例
60 歳代	133 事例
70 歳代	215 事例
80 歳代	160 事例
90 歳代	34 事例
100 歳代	1 事例

✓ 疾患（上位 10 位）

がん	129 事例
脳梗塞	88 事例
骨折	60 事例
肺炎	50 事例
心不全	41 事例
糖尿病	34 事例
脳出血	33 事例
腎不全	32 事例
脱水	27 事例
統合失調症	17 事例

✓ 概要

1. 「身寄りなし」の背景

- 全く身寄りがいない
- 親族が遠方に住んでいる
- 親族と長年交流がない
- 親族が関わり拒否
- 親族と不仲
- 親族と絶縁
- 親族の連絡先不明
- 親族と連絡がとれない（連絡先は分かるが電話にでない、常に話し中等）
- 親族が行方不明
- 親族が病気や障害を持っている
- 親族が虐待をしている
- 本人（患者）が親族について話さない
- 離婚（元配偶者がいる）
- 外国籍
- 親族は支援の意思があるが本人（患者）が関わりを拒否

2. 親族以外のキーパーソン

- 内縁関係
- 知人、友人
- 同居人
- 会社の社長

3. 入院に至る過程

- 倒れているところを発見され救急搬送（最も多い）
- がん末期の疼痛コントロールや看取り

4. 入院中に課題となったこと

【キーパーソン】

- 入院中に家族やキーパーソンと連絡が取れなくなった
- 入院中に家族やキーパーソンから関わりを拒否された

【医療同意】

- 客観的には入院や治療が必要であるが、本人が入院や治療を拒否
- 患者のQOLが低下すると思われる要望（苦しんで死にたい等）
- 救急搬送で入院したため患者背景が不明で、意思を推量する情報が全くない

【金銭問題】

- 入院費を支払う費用がなく、生活保護の対象でもない
- 入院中に生活保護が停止となった
- 口座からお金をおろせない
(銀行が遠方、銀行まで同行が必要、通帳と印鑑が行方不明、暗証番号を忘れた、代理で出金できない、口座にお金がない、委任状をかけない状態等)
- 制度やサービスの利用検討中の金銭管理や支払い

【住居】

- 入院中にADL低下、認知能力低下し、在宅復帰が困難となり、転居が必要となった
- 入院中に転居、施設入居が決定し、転居の手続き、自宅の片づけ・引き払い、持ち物の処分が必要となった
- 入院中の公共料金の支払い
- 死亡退院されたため、財産処分（車、携帯、現金）が必要となった

【制度やサービス利用】

- 判断能力があるので成年後見制度対象外であるが病気や入院のため金銭管理ができない
- 年金などの収入があり生活保護対象外だが入院費を支払う資力がない
- 医療や介護サービス、成年後見制度、日常自立支援事業等が必要と思われるが、本人が利用を拒否
- 医療や介護サービス、成年後見制度、日常自立支援事業等が必要と思われるが、親族が利用を拒否、または利用に非協力的
- 土日に亡くなった時に自治体が対応できない
- 日常生活自立支援事業利用者が多くて利用ができないと言われた
- 余命数か月での成年後見制度申立て

- 後見人が選任される前に死亡した
- 後見開始の審判前の保全処分が活用しにくい

【その他】

- 住民票を確認できない
- 居住地（住民票のある場所）、入院している病院のある自治体、親族がいる自治体が異なる

5. 支援したこと

【関係機関との連携】

- 自治体、包括、社会福祉協議会等につないだ

【制度やサービスの申請】

- 成年後見制度申立て
- 日常生活自立支援事業の手続き
- 介護保険申請
- 生活保護申請
- 国保の手続き
- 傷病手当、生命保険の手続き
- 身元保証会社との契約

【入院・医療に係ること】

- 多職種カンファレンスの開催
- 必要物品の準備、購入
- 意思決定支援

【死亡に関すること】

- 死亡届出人の選定
- 葬儀会社の選定、対応
- 納骨の手続き（お寺との対応）
- 相続人の依頼（死亡後の支払い）
- 法定相続人が存在するが関わりを拒否

- 財産処分
- 行旅病人の届け出

【退院に関すること】

- 退院先（転院先、施設、転居）の選定、手続き、同行
- 親族との連絡調整
- 自宅の引き払い、転居の手続き
- 電気・ガス会社との手続き
- 財産処分

【親族に関すること】

- 親族調査（親族が存在するか調べる）
- 親族の連絡先を調べる

【金銭管理】

- 預り金の保管
- 銀行対応（出金、振り込み代理）
- 代理購入
- 金銭管理簿の作成、記入
- 債務整理（法テラスへつなぐ）

※無権代理をする時の注意点や具体的な方法

判断能力あり、判断能力なし

親族あり、親族なし

※親族調査の必要性

長年交流なし

離婚

本人が話さない（話せない）

⇒ 制度の対象とならない人の支援

身寄りがない人の入院及び医療に係る対応について相談を受けた事例の中で特に課題が残されたと思われる事例について具体的に教えて下さい

自治体からの事例を類似性に基づいて集約した

✓ n=161 事例

✓ 相談してきた人の属性（事例の重複あり）

医療機関	57 事例
本人	26 事例
障害者施設、高齢者施設	12 事例
民生委員	6 事例
社会福祉協議会	3 事例

医療機関：MSW、看護師、ケアマネージャー、相談員等

✓ 性別

男性	104 事例	女性	45 事例
----	--------	----	-------

✓ 年齢

20 歳代	2 事例
30 歳代	—
40 歳代	5 事例
50 歳代	14 事例
60 歳代	22 事例
70 歳代	59 事例
80 歳代	36 事例
90 歳代	10 事例
100 歳代	—

✓ 疾患・障害（上位 10 位）事例の重複あり

がん	22 事例
認知症	21 事例
脳梗塞	13 事例
糖尿病	12 事例
脳出血	11 事例
骨折	10 事例
心不全	9 事例
知的障害	6 事例
統合失調症	6 事例
脱水	5 事例

✓ 概要

1. 「身寄りなし」の背景

2. 親族以外のキーパーソン

- 医療機関の事例と同様

3. 相談に至る過程、相談内容

- 倒れているところを発見され救急搬送
- 問題行動（徘徊、自傷、自殺企図、ごみ屋敷等）で警察に通報、保護
- 措置入院の依頼
- 医療保護入院の同意者の相談
- 入院時の手続き、身元保証
- 医療同意の相談
- 制度・サービス利用の手続き依頼

4. 課題になったこと

- 入院、入所時の身元保証
- 医療保護入院の同意者
- 緊急連絡先
- 意思決定支援
- 医療同意

- 本人が医療・サービス拒否
- 本人にとっての最善の医療を推量できない
- 他自治体との連携（居住地と入院している病院の自治体が異なる）
- 債務の処理
- 家賃、光熱費、水道費の支払い
- 成年後見制度市町村申立ての際の親族調査
- 葬儀
- サービス・制度（生活保護や成年後見制度）対象外の患者の対応
- 制度で対応できない業務（事実行為等）
- 有償サービスの資源がない

5. 支援したこと

- 戸籍の確認
- 親族調査
- 親族への連絡・調整
- カンファレンスへの参加、退院・転院調整
- ケース会議、ケア会議の調整・参加
- 金融機関との対応
- 入院費等支払い
- 死後事務
- 葬儀・埋葬等の調整
- 成年後見制度市町村長申立て
- 在宅生活におけるサービスの導入（配食、訪看、住環境の整備）
- 受診の付き添い
- 定期的な訪問・観察
- 法定相続人への連絡
- 身元保証会社の案内

身寄りがない人の入院及び医療に係る対応について相談を受けた事例の中で特に課題が残されたと思われる事例について具体的に教えて下さい

社会福祉協議会、日本介護支援専門員協会、日本相談支援専門員協会からの事例を類似性に基づいて集約した

✓ n=130 事例

✓ 相談してきた人の属性（事例の重複あり）

本人	56 事例
医療機関	52 事例
障害者施設、高齢者施設	8 事例
ケアマネージャー	6 事例
地域包括支援センター	6 事例

医療機関（MSW、看護師、ケアマネージャー、相談員等）

✓ 性別

男性	104 事例	女性	50 事例
----	--------	----	-------

✓ 年齢

20 歳代	—
30 歳代	—
40 歳代	5 事例
50 歳代	8 事例
60 歳代	18 事例
70 歳代	43 事例
80 歳代	54 事例
90 歳代	11 事例
100 歳代	—

✓ 疾患・障害（上位 10 位）事例の重複あり

がん	31 事例
認知症	28 事例
脳梗塞	18 事例
骨折	11 事例
糖尿病	11 事例
肺炎	6 事例
交通事故	4 事例
脱水	5 事例
統合失調症	5 事例
心疾患	4 事例

✓ 概要

1. 「身寄りなし」の背景

2. 親族以外のキーパーソン

➤ 医療機関と同様

3. 相談に至る過程、相談内容

- 関わりのあった方（日常生活自立支援事業利用者、法人後見利用者、ケアマネージャーとして担当していた方）が救急搬送された
- 入院時の手続き、身元保証
- 入院中の金銭管理
- 入院費の支払い依頼
- 受診の付き添い
- 在宅生活困難になり転居の必要となった（転居先での保証人）
- 制度・サービス利用の手続き依頼

4. 課題になったこと

- 入院時の身元保証
- 入院や医療の同意
- 延命治療の確認
- 緊急連絡先

- 入院時の金銭管理
- 口座からの出金
- 自宅から病院への私物移動
- 入院時の身の回りの世話（洗濯、付き添い）
- 関わり拒否する親族への連絡
- 退院後の住居探しや手続き
- 在宅生活困難
- 遺品の預かり
- サービス・制度（日常自立支援事業や成年後見制度）対象外の患者の対応

5. 支援したこと

- 戸籍の確認
- 親族調査
- 関係機関へつないだ
- 医師の説明を一緒に受けた
- 同意書に複数で署名した
- カンファレンスの開催
- 必要物品の準備をした
- 洗濯のボランティア
- 自治体と死後の対応を協議
- 生活の見守り
- 生活自立支援事業契約
- 金銭管理
- 銀行への付き添い
- 成年後見制度の申立て
- 親族との連絡調整
- 身元保証会社の情報提供
- お寺へ納骨
- 住居探し
- 施設探し
- 合議体の編成
- 制度・サービスの案内

困難事例のストーリーラインと課題

【患者背景】

- ✓ 社会との関わりが希薄、または社会との関わりにトラブルを抱えている
- ✓ 家族関係が希薄、または家族関係にトラブルを抱えている



【入院せざる得ない状況】

- ✓ 事故や急病により救急搬送される
- ✓ がん末期で疼痛コントロールや看取りが必要



【医療や介護、権利擁護のサービスを利用できない状況】

- ✓ 疾病の治療やQOLの維持・向上のために医療や介護、権利擁護のサービスが必要だが本人が拒否、または制度やサービスを利用できない状況



【代理行為で対応】

- ✓ 何らかの理由で公的な制度やサービスを利用できない場合、医療従事者が代理行為を実施（医療費の支払いや預貯金の管理）



【公的な制度やサービスでは対応できないことへの対応】

- ✓ 入院に必要な物品の準備や洗濯等の身の回りの世話等の公的な制度やサービスでは対応できない



【本人の意思の推定できない】

- ✓ 患者背景が不明なため、本人の意思を推定する情報がなく、医療・ケアチームによる医療の決定が困難

- 家族と疎遠、家族と不仲等が理由で家族からの支援が得られない場合は「身寄りなし」として進めてよいのか
- 家族と疎遠、家族と不仲等が理由で家族からの支援が得られない場合は、家族に連絡しなくてよいのか

- 疾病の治療やQOLの維持・向上のために医療や介護、権利擁護のサービスが必要であるが、本人が制度やサービスの申請を拒否している場合は本人の意思を尊重してよいのか

- 制度やサービスの申請をするまでには、制度やサービスの説明、制度の利用の検討、制度の利用を決定、申請の準備というプロセスがあるが、この間の対応はどうするのか

- 患者から委任を受ければ代理行をしてよいのか
- 患者の意思が確認できない場合に代理行為をしてよいのか

- 公的な制度やサービスがない場合（洗濯や付き添い）はどうしたらよいのか

- 患者に関する情報がなく意思の推定が困難な時には、医療・ケアチームはどのように医療の決定をすればよいのか